

# 農業科（『農業経済』）学習指導案

平成24年12月14日(金) 第5校時

総合学科（食と経済を考える系列）2年生

21名（男子4名、女子17名）

指導者 教諭 川島 一秀

指導場所 第1パソコン室

## I 単元名 第3章 農産物の流通

### 1 考察

#### (1)教材観

本科目は、農業及び食品産業の経済活動について学習させる科目であり、農業及び食品産業の特徴、生産組織や企業の経営や農業・食料政策に関する知識を習得させるとともに流通の構造を理解させ、流通の改善を図る能力と態度を育成することが必要である。

第3章(農産物の物流)では、市場の原理と価格の形成、農産物の需要と供給の特徴、流通の構造と機能について学習する。流通では、生産物を単に市場に出荷するというだけでなく、生産者の利潤について視点を向けながら、流通経路について学習する。

#### (2)生徒の実態

総合学科（食と経済を考える系列）2年生21名（男子4名、女子17名）であり、全般的に授業にまじめに取り組むことができる。授業では、自分の意見をまとめ、それらを発表する機会を極力つくるようにしている。

先日行われた第2学期末考査では、答案返却前に別紙のアンケートを行った。生徒の取り組み状況等の参考にしていきたい。

#### (3)教材の系統性

総合学科のため、入学時より「産業社会と人間」を学習する中で現代社会について学習する。また、1年次の10月以降の専門系列選択後から総合実習を履修させ、専門系列へ導入する。

2年次より専門科目を6科目13単位（総合実習(3)、農業情報処理(2)、農業経済(2)、食品流通(2)、教科「商業」の簿記(2)、ビジネス情報(2))を履修する。

3年次の専門科目は4科目8単位（課題研究(2)、食品流通(2)、教科「商業」の簿記(2)、ビジネス情報(2))とそれぞれの科目を発展させる。

農業経済は2年次の2単位のみであるが、農業及び食品産業の経済活動について学習する重要な科目である。

### 2 指導目標

地域の農産物、加工食品の流通及び消費の具体的な事例を通して、需要と供給の変動及びその要因と農産物市場の仕組みを理解させる。また、価格形成の原理と市場の役割を考えると同時に、流通の社会的役割と機能について理解させる。

### 3 評価規準

|          |                                                                   |
|----------|-------------------------------------------------------------------|
| 関心・意欲・態度 | 農産物や加工食品の流通に興味・関心をもち、農産物の需要と供給、流通の機能について探究しようとしている。               |
| 思考・判断・表現 | 農産物の流通に関する諸課題の解決を目指して思考を深め、基本的な知識と技術を基に合理的に判断し、その過程や結果を適切に表現している。 |
| 技能       | 農産物の流通や消費の調査に関する基礎的な技術を身に付け、その技術を適切に活用している。                       |
| 知識・理解    | 農産物の流通に関する基礎的な知識を身に付け、流通の社会的役割と機能について理解している。                      |

### 4 指導方針

- (1) 授業で学習した知識を基に思考を深め、課題の解決を目指して合理的に判断した内容を文章にまとめたり、口頭で発表する機会を設ける。
- (2) 文章でまとめる場合は、事後の活用と評価を簡便にするため、学習支援サイトを活用し、オンライン入力やファイルをアップロードさせる。
- (3) 生徒が自らの学習過程を確認できるよう、プリントに学習過程を記述させるとともに、授業後に確認を行う。
- (4) 学習支援サイトを構築し、授業の過程や資料をいつでも確認できるよう工夫するなど、学習履歴を確認できるようにする。
- (5) [本研究授業にて実施] 生徒の理解状況をその学習過程で把握するためのツールとして「レスポンスシステム」を使って測定する。  
※研究授業にあわせて、レスポンスシステムを借用しました(後述)。

### 5 指導の計画

#### 第3章 農産物の流通 (15)

- (1) 市場の原理と価格の形成 (3時間)
- (2) 農産物の需要と供給 (4時間)
- (3) 流通の構造と機能 (8時間) ……農産物流通の構造 (本時 1 / 8)

## II 本日の学習指導

- 1 主題 農産物の物流の構造
- 2 目標

農産物の流通にもいろいろなパターンがあることを学習し、農家がどのような流通ルートを選択することによって安定的な経営となるかを考える。

### 3 本日の評価規準

農産物の流通に関するさまざまなパターンを理解するとともに、農家としてどのような流通ルートを通すことが利潤の増大につながるのか思考を深め、その過程や結果を適切に表現している。

#### 4 指導的配慮事項

生徒の理解状況を、その顔つきからだけでは完全に把握できない。今回「レスポンスシステム」を試験的導入し、その把握状況を確認したい。

#### 5 準備

学習プリント、レスポンスシステム、教科書、ファイル

#### 6 展開

|     | 時間  | 指導内容および学習活動                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | 指導上の留意点                                                                                                                                                                                                                                                                                   | 評価項目と方法                                                                                                   |
|-----|-----|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 導入  | 8分  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・はじめのあいさつ（出欠等の確認）</li> <li>・前時の復習</li> <li>(1) [R] 需要量と供給量の変化で価格がどうなるかを確認する。</li> <li>(2) 塚田農場に関する記述内容を発表する。</li> </ul>                                                                                                                                                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習に取り組める状況にする。</li> <li>・レスポンスシステムがきちんと機能しているか確認する。</li> </ul>                                                                                                                                                                                    |                                                                                                           |
| 展開  | 30分 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・本日の学習内容について</li> <li>(1) 教科書pp57-59を一文ずつ音読する。</li> <li>(2) 図3-4の内容を確認し、プリントの空欄に記入する。</li> <li>(3) [R] 具体的な企業名をあげ、どの流通に形態かを確認する。</li> <li>(4) 教科書にあるEOS, EDI等の用語を確認し、プリントの空欄を補充する。</li> <li>(5) 図3-5の内容を確認し、その内容を確認する。</li> <li>(6) [R] それぞれの農産物がどのような流通経路か確認する。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・テンポよく音読できるように、区切りを明示する。</li> <li>・教科書通り答えたら、内容を確認する。</li> <li>・レスポンスシステムの結果が表示されるので、回答数を確認し、誤答が多い場合は重点的に解説する。</li> <li>・英単語の意味を確認する。時間の関係で復習する旨伝え、進める。</li> <li>・①～④の内容を確認する。</li> <li>・レスポンスシステムの結果が表示されるので、回答数を確認し、誤答が多い場合は重点的に解説する。</li> </ul> | <p>D (授業中・授業後)</p> <p>レスポンスシステムの回答履歴から理解状況を判断する。</p> <p>D (授業中・授業後)</p> <p>レスポンスシステムの回答履歴から理解状況を判断する。</p> |
| まとめ | 12分 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・農家自身が所得を多くするには、農産物をどのように販売すればよいかを考え、200字程度で学習支援サイトに入力しよう。</li> <li>・時間に余裕のある生徒はブログを記入</li> <li>・終わりのあいさつ</li> </ul>                                                                                                                                                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・わからない生徒に向けてはキーワードを明示し、記入するように促す。</li> <li>・よいアイデアが浮かんだら記述する</li> </ul>                                                                                                                                                                            | <p>B (授業後)</p> <p>アップロードされた内容を成果物とし、レスポンスシステムでの回答内容等を考慮して評価する。</p>                                        |

※評価項目（4つの観点）

A：関心・意欲・態度      B：思考・判断・表現      C：技能      D：知識・理解

7 評価

アップロードされた内容を成果物とし、レスポンスシステムでの解答を考慮して、B「思考・判断・表現」、D「知識・理解」を評価する。

ここで実施した評価は、観点別集計ではB「思考・判断・表現」としてまとめる（観点D「知識・理解」については、試験等で加味するようにため）。

| 成果物の評価規準 | アップロードデータの記述内容   | レスポンスシステム |
|----------|------------------|-----------|
| 5        | ・分量・内容ともによく記述される | おおむね正解    |
| 4        | ・分量・内容ともにおおむね満足  | おおむね正解※   |
| 3        | ・分量・内容のどちらかが劣る   | おおむね正解    |
| 2        | ・分量・内容のどちらかが劣る   | 正答率が低い    |
| 1        | ・分量・内容のどちらも劣る    | 正答率が低い    |
| 0（欠席生徒）  |                  |           |

※本時のターゲットゾーン

公欠者は、状況をみて、「評価しない」もしくは「見込み点」で評価する。

<学習支援サイトについて>

- ・この授業では「Moodle」というオープンソースのLMS (Learning Management System) を使っています。学習支援サイトのURLは、以下の通りです。

<http://manabi.nogyokyoiku.net/moodle/>

- ・本日の授業で行ったようなオンライン入力させたり、課題として作成したWord, Excel, PowerPoint等のファイルを添付して提出する機能も備えています。
- ・この学習支援サイトでは、学習履歴を表示できるほか、プリント等をダウンロードできるので、欠席したときやプリントを紛失してしまったときにいつでもダウンロードできます。

<レスポンスシステムについて>

- ・使用した機材「Interwrite Response 無線リモコン Cricket」を使用しました。
- ・公開授業を行うにあたって、レスポンスシステムを「チエル 株式会社」より借用しました。レスポンスシステムの詳細については、同社のパンフレットを資料として添付しましたのでご参照ください。今回使用した機材は、パンフレットに掲載されている「Interwrite Response 無線リモコン CPS Spark」の旧型です。